



世田谷区人口調査（平成 9 年度）
《 報告書 》

平成 10 年 3 月

世田谷区政策経営室政策企画課

2. 推計結果

2-1 住民基本台帳ベースの人口推計結果

コーホート変化率の3つのケース、A、B、Cの将来人口の推計結果の総人口を表-2に、これまでの総人口の推移と将来推計を図-9、図-10に示す。

表-2 ケース別総人口の将来推計

	ケース A (中位推計)	ケース B (低位推計)	ケース C (高位推計)
将来コーホート変化率	1994年～97年の3期間 の平均	1992年～97年の5期間 の平均	1995年～97年の2期間 の平均
将来合計特殊出生率	国の中位推計×0.6	同 左	同 左
1998年の推計値	768,674	772,238	768,051
2001年の推計値	769,720	780,535	763,705
2006年の推計値	766,790	788,900	751,194
2011年の推計値	757,597	731,773	789,874
2016年の推計値	743,610	707,218	785,160
最大値	769,720 (2001年)	790,393 (2009年)	768,051 (1998年)

ケースA（中位推計）を中心にケースB（低位推計）とケースC（高位推計）では、2016年で+4万人、-4万人の差が生じる。

ケースAでは、総人口は、2001年には77.0万人（1997年の100.3%）に増加し、推計期間中の最大値を示した後、減少に転じ、2006年には76.7万人（99.9%）、2011年には75.8万人（98.7%）、2016年には76.7万人（96.9%）に減少する。

なお、1998年1月1日の人口（実績値）は、772,352人で、ケースAの推計値768,674人より3,678人多く、ケースCの推計値に近い。ケースCでは、今後人口は増加を続け、2009年をピークに達しつつも2007年から2012年の間は、79万人前後を保ち、2016年にかけて78万程度に減少する。このケースは、現状の旺盛な住宅供給を反映しているものと考えられるが、それでも推計期間中に増加の後、減少に転ずる。今後の動向が注目される。

以後、ケースAを推計値として採用し、表-3に男女5歳階級別の推計結果を示す。



図-9 総人口の推移と将来推計（住民基本台帳ベース）

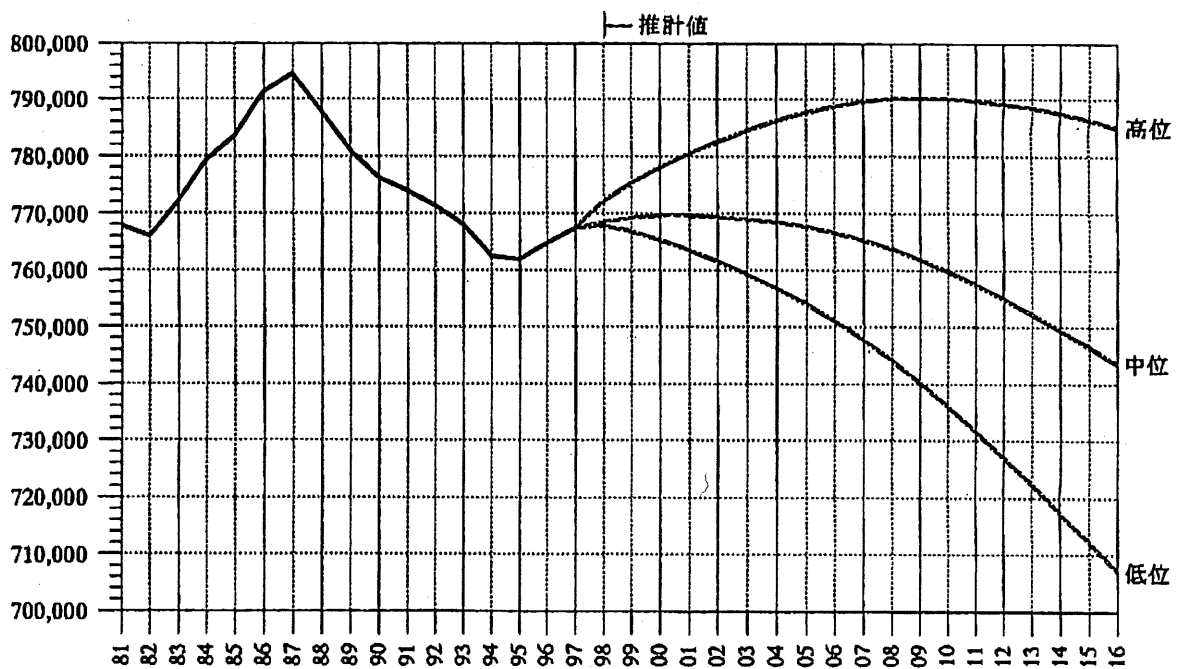


図-10 近年の総人口の推移と将来推計（住民基本台帳ベース）